

■プロローグ

えっと…確か、この楽屋だったはず…。

……あ、いたいた。

……えっと、急にごめんなさい。

澄華ちゃんの関係者の方で、合ってるよね？

実は、急な撮影の案件が入って、来れなくなっちゃったみたい。

会えなくてごめんなさいって言ってたよ。

……うーん、澄華ちゃんってすごく忙しいから。

伝える暇もなかったんじゃないかな？

……あ、ううん。私はこの後オフだったから、全然平気。

それに、澄華ちゃんの関係者って聞いたから……どんな人なのかなって。

……うん、あんまり変わってない。

……ん？ さあ、なんのことだろ。

それより、私のこと、誰か分かる？

……んーっと。半分正解。確かに、アイドルの桜坂希空ではあるけど……。

ほんとに分からない？

……そっか。なら、試しに希空ちゃんって呼んでみて？

……いいから、ね。

……ふふ、そうだよ。やっと気づいた。

あーあ、ショックだなー。昔はそれなりに仲良しだったと思ってたんだけど…。

……ふふっ。なんて、冗談だよ。そうやってすぐに謝るとかも、あの頃と一緒にだね。

久しぶり。小学校以来、かな。

同じクラスだったとはいえ、卒業してからは別々の学校になっちゃったし…

私の夢のこと、覚えてないのも……まあ、無理はないかな。

実は、私も澄華ちゃんと一緒に、目指してたんだよ……アイドル。

……あっ、思い出してくれたの？ ふふっ、やったあ。

……うん。アイドルは、昔からの夢だったから…。

ずっと両親に反対されてたんだけど、でも、諦めきれなくて…
縁を切られる覚悟で始めちゃった…。

でもね、今はすっごく楽しいんだ。
ダンスの練習とか、すっごく大変だけど…
今は、始めて良かったって気持ちでいっぱいだよ。

……も、もう、そんなことまで思い出さなくてもいいってばあ。
そういえば、小さい頃はアイドルの特訓とか言って、
遅くまで付き合わせちゃったこともあったっけ…

けど、それがあったからこそ、今の私があるのも事実だから…
いい思い出、かな…。

……ん？ まあ、うん…私の事は気にしないで？

せっかくだから、もうちょっとお話したいかなって…

…だめ、かな？
……ふふっ。じゃ、決まりだね。

あ、澄華ちゃんと言えば…
実は私、こんな噂を聞いたことがあるんだ…
本当かどうかはわからないんだけど…

とある熱心なファンの男の子が、澄華ちゃんや、天音さんと…
イケナイことをしてるみたいなんだって。

…もしバレたら、ファンの人たちに襲われちゃってもおかしくないようなことを…ね？

……んー？ 急にびくってして、どうしたの？
あ…もしかしてえ、そのファンの子に心当たりでもあるのかな？

それとも…そのファンの男の子って、君だったりして…？

……ん、もう、そんなに怖がらなくてもいいのに。

……別に、脅すつもりなんてないよ？

しいて言うなら、ほんのお遊び…かな。
君がどんな反応するのか、気になっちゃって。

……本当のことを言うとね、私…澄華ちゃんから全部聞いてるんだ。

君と澄華ちゃん、それに天音さんとの関係のことも…。
澄華ちゃん、君と天音さんの関係を見て、少し戸惑ってたみたい。
どうしたら“君の一番になれるのか”って…。

……もちろん。

君が天音さんを想う気持ちも、ちゃんと知ってる。
それに、澄華ちゃんのことを想ってる気持ちも……ね？
二人とも君の一番になりたがってるものね。

……揺れてるんでしょ？

どっちも大切にしたいと思う一方で、“それは不誠実なんじゃないか”って、
心のどこかで、心配してる。

……けどね、それは半分正解で半分間違い。

複数の人と関係を持つなんて、今では当たり前のことなのに。
ましてや、君はあの“恋人ガチャ”に選ばれた人なんでしょ？
優秀な遺伝子を持つ君が、複数の関係を築くなんて当然のことだし、
むしろ国がそれを推奨してるくらいなんだから。

……だからね、そんなに気を張らなくてもいいんだよ。

もしまだ迷ってるなら——
もう一人…増やしてみる…とか？

……………私は、彼女たちとは違うよ？
君の“一番”にならなくてもいい。みんなと仲良くやっていける自信…あるし。

だから、ね……？
難しいことはあとで考えればいいから…
今はただ——私に、甘えてみない？